

中学校社会科地理的分野学習指導案

1. 小単元名と対象学年

- ・小単元名-----「日本の資源・エネルギー」（全2時間、省略により全1時間も可能）
- ・対象学年-----中学校第2学年

2. 平成29年版中学校学習指導要領（社会，地理的分野）での位置づけ

- ・大項目 「 C 日本の様々な地域 」
- ・中項目 「 (2) 日本の地域的特色と地域区分 」
- ・小項目 「 ③ 資源・エネルギーと産業 」 (この小項目のうち「資源・エネルギー」を扱う)

3. 小単元の目標

【知識及び技能】

- ・日本の資源・エネルギーに関する変化，現状，特色，課題について理解する。
- ・各種の地図や図表，写真等のデータから，資源・エネルギーに関する様々な情報を読み取る。

【思考力，判断力，表現力等】

- ・日本の資源・エネルギーに関する変化，現状，特色，課題について，日本および日本各地の環境条件や世界との結び付きにもとづき，あるいは過去の日本との比較や諸外国との比較にもとづき，多面的・多角的に考察し，表現する。

4. 授業展開過程

	教師の発問・指示	スライド	学習内容
導入	《任意の導入》 ●日本は資源やエネルギー，電力をどのように確保してきたか。		
展開 1 1(1)	◎日本は鉱産資源をどう確保してきたか。世界，外国との結び付きから主に考えよう。	2	
	○世界の鉱産資源分布はどうなっているか。 ・主にエネルギー資源である原油の産出国はどこか。地図帳で位置も調べよう。	3～6	・産油量はペルシャ湾岸で多く，国別ではロシアやアメリカも多い。日本は少ない。
	・原料資源であるボーキサイトの産出国はどこか。地図帳で位置も調べよう。	7～9	・ボーキサイトは，主に熱帯・亜熱帯地域で産出される。日本はとれない。
	・近年注目される原料資源，各種レアメタルの産出国はどこか。 ・まとめよう。	10～11 12～13	・各種レアメタルは，それぞれ特定の国・地域で多く産出される。一部を除いて日本は少ない。 ○世界の鉱産資源分布は大きく偏り，日本は産出量が全般に少ない。 ※ ただし，日本はかつて資源輸出国だった。
1 1(2)	○世界の鉱産資源分布が大きく偏り資源の乏しい日本は，資源をどう確保してきたのか。エネルギー資源を例に考えよう。		

	<ul style="list-style-type: none"> 日本のエネルギー自給率は、どう変化してきたか。 輸入エネルギーが大きく増えたのはなぜか。日本のエネルギー需要から考えよう。 輸入エネルギーが大きく増えたのはなぜか。世界のエネルギー供給から考えよう。 輸入エネルギーが大きく増えたのはなぜか。輸送の変化から考えよう。 現在、日本のエネルギー自給率はどのくらいか。諸外国と比べてどうか。 まとめよう。 	<p>14～15</p> <p>16～17</p> <p>18～19</p> <p>20～21</p> <p>22～23</p> <p>24</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日本は20世紀後半、輸入エネルギーが大きく増え、国産エネルギー中心から輸入エネルギー中心へ変化した。 日本はエネルギー需要が増大し、石炭・水力中心から石油中心へ変化する中、石油など輸入エネルギーが増えた。特に、1955～73年の高度経済成長期に、鉱産資源の全般で輸入が増えた。 世界各地で資源開発が進み、輸入エネルギーが増えた。世界では露天掘りなどもみられ、国産より安価で高品質なものが多くなった。 輸送技術が進歩し、輸入エネルギーが増えた。約300mやそれ以上の巨大なタンカーやバルクキャリアによる輸送も多くなった。 現在、日本のエネルギー自給率は1割程度である。諸外国と比べて自給率は低い。 <p>○日本は20世紀後半、国内の需要増大、世界の供給増大、輸送の進歩が進む中、輸入を大きく増やし鉱産資源を確保した。自給率は低下した。</p>
1 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ○日本は鉱産資源の多くを輸入に依存するが、資源輸入の問題点は何か。 日本の資源輸入について、輸入先から考えるとどのような問題があるか。 日本の資源輸入について、資源価格から考えるとどのような問題があるか。 21世紀に資源価格が大きく上昇や変動しているのはなぜか。世界のエネルギー消費から考えよう。 まとめよう。 	<p>25～26</p> <p>27～28</p> <p>29～30</p> <p>31</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日本は各種資源の輸入で、特定の国・地域への依存度が高い。石油は約9割を中東に依存し、中東情勢は日本に大きな影響を及ぼす。 鉱産資源の価格は、21世紀に大きく上昇や変動している。 新興国の経済成長などにより、世界のエネルギー需要は増加している。需要の増加、各国・地域の諸状況の変化、国際経済の発達・混乱などに伴い、21世紀に資源価格が大きく変化した。 <p>○日本の資源輸入は、特定の国・地域への依存、輸入価格変化などで、不安定さを抱えている。</p>
展開 2 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ◎日本は電力をどう確保してきたか。国内の変化から主に考えよう。 ○電力について学習するうえで、各種発電のしくみと特質を知ろう。 《展開の詳細は省略、スライドを参照 / 展開2-(1)全体の省略も可能》 	<p>32</p> <p>33～41</p>	
2 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ○各種発電がある中、日本は電力をどう確保してきたのか。 日本の発電方法の中心は、どう変化してきたか。 火力や原子力が増えたのはなぜか。 日本は各種発電所が数多くみられるが、それぞれどこに立地しているか。中部地方を例にして調べ、立地を考えよう。 	<p>42～43</p> <p>44</p> <p>45～47</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日本は20世紀後半、水力中心から火力中心へ変化した。原子力も約3割を占めるまで増えた。 日本は電力需要が増大する中、火力で必要な輸入エネルギーを増やし、原子力の技術を進歩させ、火力や原子力を発達させ電力を確保した。 水力は山間部の河川沿いに立地し、火力は都市・工業地域の臨海部などに立地し、原子力は人口密集地から離れた臨海部に立地する。日本は各地の条件を活かして各種発電所を建設し、電力を確保してきた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、日本の発電は、諸外国と比べてどのような特色があるか。 ・まとめよう。 	48～50 51	<ul style="list-style-type: none"> ・日本は火力の占める割合が高く、その中でも天然ガスと石炭を燃料とするものが多い。 ○日本は20世紀後半、輸入エネルギーを増やし技術を進歩させ、各地に適した発電所を建設して、需要が増大する電力を確保した。
2 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ○日本の発電は2011年以降どう変化したか。 ・2011年に何があったか。 ・原発事故後、日本の原子力発電はどうなったか。 ・最近10年ほどの日本の発電について、どのような変化があったか。 ・近年、再生可能エネルギーによる発電はどうなっているか。 ・まとめよう。 	52 53 54～56 57～58 59～60	<ul style="list-style-type: none"> ・2011年に東日本大震災があり、福島第一原子力発電所で事故が起きた。福島第一原発では廃炉作業が進められている。 ・原発事故後、日本の原子力発電所は稼働を停止させ、事故を教訓にした厳しい規制（安全）基準を設けて検査を進めた。 ・省エネルギーなどで日本全体の発電電力量は横ばいである。原発停止後は、天然ガスを燃料とする火力発電の増加などにより電力を確保した。原発は、厳しい規制（安全）基準による検査に合格した炉は再稼働し、基準への対応が難しい炉は廃炉となっている。また、再生可能エネルギーの利用が進んでいる。 ・近年、太陽光発電や風力発電など再生可能エネルギーによる発電が大きく増えている。 ○日本は2011年に電力確保に関わる大きな危機があったが、省エネルギーや代替措置で電力を維持した。現在は徐々に原発再稼働が進み、再生可能な新エネルギーも増えている。 ※ 原子力や再生可能エネルギーは地球温暖化の原因となる温室効果ガスを排出せず、天然ガスも比較的クリーンとされる。 ※ 環境問題が注目される中、近年はリデュース（ごみ減量）、リユース（再利用）、リサイクルの「3R」で、廃棄物・ごみ削減もめざされている。
終 結	<ul style="list-style-type: none"> ●「日本は資源やエネルギー、電力をどのように確保してきたか」について学習してきた中で、自分が興味深いと考えたことを4つ挙げ、より興味深いものから順に記せ（スライド61）。 ●日本の資源やエネルギー、電力の確保の問題について、今後自分はどのような点に注目して考えていきたいか、先ほどの記述も参考にして、2行程度で記せ（スライド62）。 		